令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	84	学校名	静岡県立新居高等学校（全日制）	校長名	野﨑真司

本年度の取組

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	成果と課題
ア	**生命が守られ、安全で安心して生活できる校内環境の整備**	命を大切にし、思やる心を持ち、判断力、行動力のある生徒が育つ。	心を育てる講義(薬学講座、思春期講座)や集団活動（文化祭、体育大会等）の実施。	A	講座や行事の実施を通して、リモートでは得られづらい成果を感じることができた。
		「いじめ」を感じる生徒が早期に発見され、適切に対処される。	「いじめ」や「ひやり、はっと」等、生徒の心の状態を調査するアンケートを実施した。	A	定期的なアンケート調査の充実や常日頃からの生徒の行動の注視等により、生徒の安全対策やいじめの防止について、職員の意識を統一して行動した。
		清掃時の点検を徹底し危険個所が未然に補修される。	施設点検表を用い５回定期点検を行った。	A	危険箇所の把握や未然に補修することができた。
		コロナ禍での多様な状況に対応した訓練ができる。	４月と９月の年２回、防災訓練を行った。	A	消防署以外に警察署とも連携した訓練を実施した。
		地域防災への意識が高まり参加率 75%を超える。	地域防災訓練への参加を促した。参加率 R3(18%)、R4(25%)	B	コロナ禍においても昨年より参加者を増やすことができた。
		生徒の交通事故０件。交通違反０件。	交通安全教室の年度当初の実施と継続的な交通安全指導を実施した。 交通事故 R3(4 件) R4(4 件) 交通違反 R3(41 件) R4(9 件)	B	昨年より交通事故は同数、交通違反は減少した。さらなる減少向け、引き続き交通安全に対する意識を徹底させたい。
イ	基本的生活習慣の確立と自立した生徒の育成	挨拶、礼儀、正しい身なりなど、当たり前のことがきちんと身に付く。 問題行動が未然に防がれ落ち着いた学習環境が維持される。 生徒の消費者トラブル０件。	学年集会、全校集会を定期的に放送で実施した。 「新居高ハンドブック」に基づく、保護者、教職員が連携した指導を実施した。 登校指導と授業時間も含めた校内巡視、購買指導を実施した。	A	校内での生徒の生活態度は下級生に落ち着きがない場面がみられ、また、遅刻早退が増加した。 校外での SNS 使用上の問題、chromebook 導入に伴う行動トラブルなどの改善が必要であり、指導方法等を検討していきたい。
		生徒指導への保護者の理解度 80%以上。 周りの人から認められていると感じる生徒が増加する。 自分や周囲の人のよさに気付き、互いに認め合うことができる生徒が育つ。	生徒指導件数 R2(8 件)R3(5 件) 生徒指導への理解 R3(94%) R4(95%) 部活動指導 R3(89%) R4(89%) 行事指導 R3(79%) R4(90%)	A	問題行動発生件数は下級生中心に大幅に増加した。生徒の人権に配慮し特性に応じた指導を心掛けて実行した。今後も未然に防ぐ対策を検討していきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	成果と課題
イ	基本的生活習慣の確立と自立した生徒の育成	将来の目標を語る生徒が増加する。	生徒アンケート「自分の夢や目標を実現するための努力をしている。」 １年　81.0% ２年　77.0% ３年　91.6%	A	第２学年が相対的に低いので、進路指導を通して自分自身の将来についてしっかりとりくるように指導していきたい。
		ルールについて自ら考え行動できる。 新居高ハンドブックの見直しを進める。	登校時の靴・鞄の自由化を実現した。 社会状況、本校の現状を踏まえたも直しを行なった。	A	・登校時の靴・鞄の自由化を実現した。 ・学校内外の状況に応じて今後も見直しを進めていく必要ある。
		アンケート「私は一人の大切な人間である」において肯定意見 90%以上	12 月に実施	A	・生徒の課題として「学習習慣の欠如」、「目的意識の低下」がある。 ・教職員の取り組みとして「わかりやすい授業」や「声かけ」の実践が必要である。 ・保護者への丁寧な対応の継続
		奉仕活動に全員が参加し奉仕の心が育つ。	海岸清掃及び各学年奉仕作業を実施した。	A	今後も海岸清掃を、生徒全員で実施し、奉仕活動・環境教育につなげたい。
ウ	確かな学力の育成	生徒の実態にあった「新居高の授業」づくりが進む。	・保護者と中学生を対象とした公開授業を実施した。 ・新課程対応のシラバスを新たに作成するとともに内容の再検討を行った。	A	・公開授業のアンケートでは概ね好意的な意見が多くみられた。 ・生徒の現状とその変化に合わせて授業の計画も対応させていく必要がある。
		・全員が事前学習をしてテストに取り組んでいる。	・授業の中でも定期テストの準備の機会をもち、テストへの向かい方も含めて細やかな指導を行った。	A	幅広い学力層に対応すべく、ICT を活用した個別最適な学習を検討し、より個人に効率的な学習を目指す。
		・学習評価についての研修会の実施 ・１学年の観点別学習評価について生徒及び保護者が納得している。	・学習評価について、研修会および教科主任会を通じて情報共有を行った。	A	・１学年の学習評価について、生徒および保護者からおおむね肯定的な意見が多かった。 ・学習評価について評価法や評価平均などの検討、改善は継続的に行う必要がある。
		・校内での授業参観期間において端末やＩＣＴを活用した授業の実施	・授業参観及び通常の授業について、全学年計６教科で ICT 端末を活用した授業が行われた。 ・１学年では、一人一台端末を活用した授業が６教科で実施された。	B	・教科の特性に応じた端末および ICT の活用を模索し、利用率のさらなる向上を目指す。
		・「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合 80%以上	生徒アンケート「授業内容の理解ができている。」 １年 85.1%	A	各教科においてよりわかりやすい教授法を探求していきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	成果と課題
			２年 80.8%　３年 90.8%		
		・図書館利用者数 ５％増加	達成できた。	A	新着図書の PR を積極的に実施していきたい。
エ	コース制及び進路指導の充実	・学級減による課題や改善点の検討を経て新教育課程が確立する。	・コースミックスクラスを検討し、時間割の検討や教育課程の検討を経て実施に向けた準備を行った。	A	・実施した際の評価・再検討をする。
		・進路に必要な学力が身に付く。 ・就職希望者の年内内定率 100%	３年間を通して６回の基礎学力テストを行っている。	A	年内内定率R3(95%) R4(100%) 警察の合格率が下がった。
		「進路意識が向上した」と答える生徒・保護者 80%以上。	１年生のｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟが中止。 代替行事を実施。	A	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ以外はほぼコロナ前の状態に回復。
		外部機関の活用・支援が充実する。	進路ｶﾞｲﾀﾞﾝｽと規律とﾏﾅｰ等の実施	A	資格取得 70 名、規律とマナー139 名受講
		資格の取得が進む。	浜名湖自動車学校の協力を得て実施	A	ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 38 名取得。玉掛の実施はなかった。技能検定(機械検査)受検者数 24 名
オ	特別活動及び部活動の充実	生徒会を中心に委員会活動において生徒の主体的な運営場面が増える。	生徒会活動への自主的、実践的な取り組みを推進した。	B	生徒数の減少を踏まえ、生徒会リーダー育成を充実させる必要がある。
		集団への所属感、連帯感が深まり、公共心が育つ。	徐々にコロナによる集会自粛を解除して実施した。	A	文化祭・体育大会を安全に開催することができた。
		・部活動に参加したことにより、人間的に成長できたと答える生徒 90%以上 ・部活動と学業との両立ができていると答える生徒 80%以上	・顧問の適正配置と支援制度の活用による部活動指導体制の充実に取り組んだ。 ・部活動を通した健全な生活態度の育成に努めた。 ・実態に合わせ、部活動の統廃合を進めた。 ・生徒会活動への自主的、実践的な取り組みを推進した。 ・部活動で人間的に成長できた。R3（83%）R4(78%) ・部活動と学業との両立ができている。R3（79%）R4(76%)	B	・各部活動　が主体的　に活動している。 ・部活動支援員、スポーツエキスパート及び文化の匠事業等効果的に活用できた。 ・生徒数減 少に伴い引き続き顧問の適正配置について検討していく。
		生徒と顧問との信頼関係が深まり、部活動の定着率の高さが維持される。	顧問の適正配置と支援制度の活用による部活動指導体制の充実に取り組んだ。	A	・各部活動が主体的に活動している。 ・部活動支援員、スポーツエキスパー ト及び文化の匠事業等効果的に活用できた。

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	成果と課題
					・生徒数減少に伴い引き続き顧問の適正配置について検討していく。
カ	保護者や地域等と連携し、開かれた学校づくりの推進	事務処理に掛かる時間が減少する。	規則等に則った事務処理に時間を要した。	B	事務改善を検討する必要がある。
		教育活動が円滑化し、保護者からの信頼が深まる。	丁寧な予算の見直しにより執行残額が減少した。	A	継続して予算の執行状況を確認する。
		学校は相談に適切に対応していると答える保護者 90%以上	保護者アンケート「学校は保護者からの相談を適切に対処している。」 １年　93.2% ２年　87.7% ３年　94.3%	A	２学年がわずかに 90%を切っている状態であるが、全般としては保護者に対して適切な対応がされてきた。
		幅広い学校間のつながりができ、他校種の優れた取組が本校に反映される。	コロナ禍で移動が制限されたため、他校との積極的な交流は実施できなかった。	B	コロナ対策が変化する中で、人的交流の可能性も高くなっているので、状況次第では、積極的な交流を行っていきたい。
		・学校の様子が保護者や地域にタイムリーに伝わる。 ・メール配信登録率 100%	公開授業では、学校案内やパンフレットを配布した。	B	ホームページや SNS を利用してよりリアルタイムな発信をおこない、地域や保護者への学校教育への理解の深化を図る。
		「あらぽん」が地域に親しまれる活動を行う。	学校祭、「学校紹介ビデオ」や「新居高校だより」等で活用した。	A	対外的な学校 PR 等にまだまだ活用の余地がある。イベントへの参加を増やしていきたい。
キ	持続可能な教職員の働き方改善	・研修を適切に実施できたと答える教職員 80%以上。	８月に「教職員の観察力の向上」９月に「指導改善のための学習評価」の研修を行った。	A	・支援において生徒の達成目標をどこに据えるのか、判断が難しい面がある。 ・評価基準設定の視点を各教科から出された意見を参考にすることができた。
		・各学年・分掌・教科で業務の平準化、効率化に関する取組提案１件以上	運営委員会のペーパーレス化とアンケートフォームを活用した業務の効率化を推進した。	B	次年度以降、分掌ごとの教員配置数に偏りが予想される。このため、分掌間の業務の平準化に取り組み必要がある。